

今日の力

翻譯 村 越 克 子

中 野 雄 貴

編集 岩田欣三

御茶の水キリストの教会

最 高 の 祈 り

そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。」 ヨハネ 18：11

誰がイエス様を責めることができますか？ イエス様は、ご自身が耐え忍ばなければならぬ恥、痛み、嘲笑、拒絶、悪口を十分承知されていました。そして何よりも、私たちの罪の重さをご存知でした。

それより以前にイエス様は『しかし、わたしには受けるバプテスマがあります。それが成し遂げられるまでは、どんなに苦しむことでしょう。』（ルカ12：50）とおっしゃいました。

今まさに十字架につこうとされている方が、権威をもって説かれ、群衆に食事を与え、悪霊を追い出し、病人、盲人、ろうあ者を癒し、死者をよみがえらせ、嵐を叱り、湖の上を歩き、イエス様に反対する者とのあらゆる議論に勝利し、宮の中で売り買いする者たちを追い出されたお方です。

その同じお方が、今『悲しみのあまり死ぬほど』になられています。イエス様ご自身の願いと神様のみこころのどちらかという、イエス様の魂の激しい苦しみは続きました。両方をかなえることは、イエス様にお出来になりません。もちろん私たちにもです。

従順であることには「高い値札」はついていませんし、その夜、イエス様が『しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。』と言われたこと以上の代償を払うこともありません。

祈り お父様。私たちが御子をもっと見倣い、あらゆることを神様のみにこころにゆだねることができるようにお助けください。イエス様がみにこころにゆだねられなかったら、私たちの今はありませんでした。

イエス様の御名において。アーメン。

デビッド・ギブソン
テキサス州 コマース

10月23日(火)

と書いてある

聖書朗読 ルカ 4：1～13

それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということを、あなたにわからせるためであった。 申命記 8：3

家から遠く離れ、空腹と孤独のなか、イエス様は荒野で悪魔の試みに会われました。悪魔はイエス様が空腹であることを知っていたので、食べ物の中でイエス様を試しました。それから悪魔は、イエス様は全世界にかかわるご使命をおもちであることも知っていたので、今度は、全世界での成功を約束しました。最後は、エルサレムの神殿の頂にイエス様を立たせて、神様を試すために、ここから飛び降りるように言いました。

悪魔のどの試みに対しても、イエス様は『と書いてある』とお答えになり、3回、イエス様は申命記を引用されました。申命記6章と8章にある3つの引用のもともとの箇所を読むと、イエス様のこの状況において、この箇所を引用されたことが、いかに適切であるかがわかります。そしてまた、飢えて弱っていても、誰の助けもなくても、聖書を記したものを所蔵している教会から遠く離れていても、イエス様は申命記を十分にご存知でいらっしゃったことがわかります。

イエス様をご経験されたことは、『と書いてある』ということの価値を私たちに思い起させます。聖書を暗唱できること、困難な状況にあっても聖書を思い出してみこころを身近なものにすること、信仰を支えるために聖書を用いることは、イエス様にだけではなく、私たちにも働きかけます。次に困難な局面を迎えてときには、聖書には『と書いてある』と思い出しましょう。

讃美歌 190

祈り 親愛なる神様。イエス様が試みに会われたように、私たちみんなが悪魔の誘惑に会っています。イエス様のように、私たちも『と書いてある』と答えることができるように、聖書を学ぶ心を私たちに与えてください。
聖書をとてもよくご存知のお方を通してお祈りします。アーメン。

ハロルド・シャンク
オクラホマ州 エドモンド

10月24日(水)

悔い改めの必要はない？

聖書朗読 ルカ 7：24～30

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」 マルコ 8：34

イエス様とパリサイ人、律法学者との論争はエピック（叙事詩）でした。彼らは、なにかにつけてイエス様に反対しているように思われました。今日の聖句でのルカの解説は、パリサイ人と律法学者が抱えている最大のトラブルを説明しています。それは、彼らのためのイエス様の目的を、彼らが拒絶しているということです。こんなふうに想像してみてください。神様の神聖な啓示を学ぶことに全人生をかけている人たちがいました。でも、彼らは自分たちのために神様が用意してくださった目的を受け入れようとはしませんでした。確かに、彼らはそのような告発で、イエス様に激しく反対し、さらに、自分たちは神様のために戦う偉大なる勇士として周りから見られていると主張しました。

従順になるカギは、自らすすんで悔い改めることです。つまり、自己主導の生活から離れて、あなたの人生のために神様が用意してくださった目的を受け入れることです。自分のことで頭がいっぱいだと、神様が働いてくださる余地がありません。悔い改めというバプテスマを通して新しいスタートを切る申し出をパリサイ人や律法学者が受け入れなかったことを考えると、自分たちが神様にとって代わっていないかを自問することになります。聖書のことを知っているからといって、神様のことがわかったり、神様が私たちのために用意してくださる人生の目的を理解することにはなりません。

まずは、自己主導的な生き方を捨て、人々のためにご自身を与えられるというイエス様の道を受け入れなければなりません。そこでこそ、神様が私に与えてくださった人生の目的を見つけることができるのです。

讃美歌 324

祈り 親愛なる神様。自分中心な欲望を悔い改めて、あなたが私に託してくださったことを行なうことによって、あなたをたたえるように、あなたは私を創造してくださいました。自分がもっているものは自分のものではなく、困っている人に分けるために自分に与えられたものであることを覚えることができますように。
イエス様の御名において。アーメン

アール・D・ラベンダー
テネシー州 ブレントウッド

10月25日（木）

聞 い て , 聞 い て

聖書朗読 ルカ 10:38~41

知恵のある者はこれを聞いて理解を深め、

箴言 1:5

先生は教室を見回してから、左手の人差し指を立て、目立つような大きな動作でその指を頬に当てました。「さて、皆さん、自分の左手の人差し指を顎に当ててください」と先生は言いましたが、生徒たちは自分たちが聞いたように指を顎に当ててのではなく、自分たちが見たように、咄嗟さに、指を頬に当てました。先生はもう一度説明しました。すると何人かの生徒は理解しましたが、その他の生徒たちは、先生が自分たちにわかるように説明してくれるのを待たなければなりませんでした。どうしてでしょうか？

なぜなら、私たちは人の言っていることを聞いていないことが、しょっちゅうあるからです。しかし、聖書のいたるところで、『聞くには早く、語るにはおそく』あることが勧められています。指示を受けるときには聞き、また人がその人の考えや気持ちを表現しているときも聞く必要があります。子どもたちは親の言うことを聞き、親は子どもたちの言うことを聞かなければなりません。困っている人、問題を抱えている若い人、重要な決断に悩んでいる人が話すことを聞く必要があります。そしてまた、神様のメッセージと神様の創造の音の響きを聞かなければなりません。

聞くことは理解につながります。マリアはイエス様のみ言葉に聞き入りましたが、マルタはそれよりも重要ではないことに気を使いました。賢明になって、聞くことを大切にしましょう。

讃美歌 453

祈 り 親愛なる神様。あなたのメッセージを聞く耳を与えてください。私たちの話をいつもよく聞いてくださることで、あなたが私たちを深く愛してくださっていることをお示しくださり、ありがとうございます。

イエス様の御名において。アーメン。

ケビン・B・レイチェル

テネシー州 ナッシュビル

9月26日（金）

意思を与えてくださった

聖書朗読 ヨハネ 9:35~41

私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。
Ⅱペテロ 3:18

先日友人から一冊の本をプレゼントされました。古い本ではありましたが、そこに書かれている言葉は今まさに私が求めているものだったのです。たくさんの恵みがつまっていました。この贈り物を通じて神様が私を強めてくれることに感謝いたします。

しかし本当に何よりも私に恵みを与えてくれるのは神様の生きている言葉です。聖霊を通じて語られるこの言葉によって私たちは生かされているのです。

本日の聖書朗読箇所は盲目の男の物語です。彼は驚くほどに従順で、信仰深く、清く正しく生きていました。私たちは彼と同じように、それぞれ自分の信仰があり、それぞれに自分の地上生活があります。しかしこれは神のみわざなのです。神は意思を私たちに与えてくださったのです。私たちの選択も、未来も、信仰もすべて神のみわざなのです。

神様は私たちの隣に確かにいてくださり、聖霊を通じて素晴らしい恵みを与えてくださいます。その恵みの一つに意思があるのです。信仰を持ち、育てるかどうかは神の恵みの内にあなた自身にゆだねられているのです。

讃美歌 354

祈 り 天にいますお父様。日々の導きを感謝いたします。日々私たちに様々な恵みを与えてくださることを感謝いたします。どうか私たちがあなたのことをより多くの人に知ってもらえるよう働けますように。アーメン。

W・スコット・ウッドリー

テネシー州 キングストン

9月27日（土）

注 意 し て ！ ！

聖書朗読 ルカ 12：15～21

どんな食欲にも注意して、よく警戒しなさい。

ルカ 12：15

危ないよ！！ 気をつけて！！ 注意を促すような言葉はいくつもあり、ある時には私たちが脅すために使われ、またある時には警戒させるために使われます。私たちはその言葉をしっかりと受け入れなくてはならないのですが、あまりにも耳にすると逆に免疫が付いてしまい、注意を受け流してしまうこともあります。例えば親や教師の注意は私たちを反省させるためでなく、ただやみくもに驚かせるためにしているように思えてしまうことがあるでしょう。ただ悲しいことに、そんな無視してきた注意は後々になって私たちに重くのしかかります。彼らの注意は私たちが楽しんでいる趣味の時間や、食事の時間に限って飛んできます。そんな時、私たちに出来たのはただ耐え、成り行きを見守ることだけであり、多くの場合その注意を受け止めるようなことはしませんでした。私たちの自尊心も傷つけられたでしょう。だからこそ気をつけないといけないのです。

繰り返される注意というのは意味を失っていきます。しかしイエス様の注意に関しては、私たちはしっかりと慎重に聞かなくてはならないのです。もしも神様の明らかなる注意の言葉に私たちが背けば、神様との関係は崩れ、私たちは頼るすべをなくしてしまいます。だからこそ、私たちはわがままを言わず神様の言葉に耳を傾けるべきなのです。神様の懸命な忠告は心にとどめるだけの価値を持っています。

人の益を計り、良い行いに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように。

1テモテ 6：18

讃美歌 第二編 80

祈 り 神様。あなたの忠告に感謝いたします。あなたの注意をしっかりと聞き、真摯に受け止め、より良い信仰生活を送れるようにしてください。アーメン。

スーザン・K・ギボニー

カリフォルニア州 マリブ

9月28日（日）

孤 独 の 内 で

聖書朗読 ルカ 22：39～46

恵みとまことを捨ててはならない。

箴言 3：3

苦しみのあるとき、その苦しみが自らから出ていくように、何もかもがすっかり消えてしまうようになりながら願うよりほかにないように考えていませんか？ もちろん私もそうしてしまうこともあります。しかし私は目の前にある困難は私を成長させ、また神の恵みを再確認する時を与えてくれると考えるようにしています。

イエス様は愛も喜びも経験しています。恐れも悲しみも孤独感も痛みもご存じです。死の畏れに目を向けたときに人とのつながりを求める心も理解しています。ありとあらゆる恐れが心を支配することも理解してくださっているのです。

私が心情的・精神的・身体的・霊的に乾いていると感じる時、イエス様が弟子や家族と共にゲッセマネに行き、彼らと話し、そして失望したという事実は私の痛みを和らげてくれます。心の底から、弟子たちにも自らの痛みの原因となっている出来事と向き合ってほしいと望んでいたからです。イエス様ですらこの痛みの中にいたのです。だったら私たちが苦しみの中で孤独感を味わうことは何らおかしいことではありません。

まことに、人が抱く失望は天の恵みをより身近に感じさせてくれるのです。神様との関係を深めるのはこのような時なのです。イエス様は私たちに慰めてくださいます。平穏とは私たちが神の御手の内にいて、神と共に歩んでいることを覚えたときにこそ与えられるのです。

讃美歌 399

祈 り 愛する神様。私のそばにいてください。私の手を握っていてください。いつもともに歩んでください。いつまでもあなたの愛と恵みの内にとどめますように。アーメン。

デニス・クリスティン

カリフォルニア州 サンタ・ローサ